

## 第4章 技術協力プロジェクトの基本計画

### 4-1 基本計画

#### (1) プロジェクト名

和文：障害者社会参加促進プロジェクト

英文：Project on the Promotion of Social Participation of Persons with Disabilities

#### (2) プロジェクト実施期間

本プロジェクトは3年間とする。開始時期はR/Dに記載されているとおり、長期専門家赴任日とする。長期専門家（チーフアドバイザー）の派遣は2008年12月上旬を予定している。

#### (3) 実施相手先機関およびカウンタパート

パキスタン国北西辺境州アボタバード県調整局が実施相手先機関であり、カウンタパート機関は同県社会福祉・コミュニティー開発局とする。プロジェクトダイレクターとして県計画局長、プロジェクトマネージャーとして社会福祉・コミュニティー開発局長とする。また、プロジェクトチーフコーディネーターとして連邦政府から国家行動計画コーディネーター、プロジェクトスタッフとして連邦政府からアボタバード県の連邦立特殊教育センター正規職員（肢体不自由者）とした。

#### (4) 上位目標

アボタバード県以外の地域において「障害のある男女の社会参加促進」に関する活動が開始され、国家行動計画の実施への移行に寄与する。

#### (5) プロジェクト目標

アボタバード県において、障害のある男女の社会への参加<sup>4</sup>が促進される。

#### (6) アウトプット

0. 連邦・州・県政府およびNGO間のネットワークが構築される。
1. ジェンダー、民族、年齢、その他の社会文化的な視点を考慮した障害者組織・自助組織・家族協会が育成・強化される。

---

4 障害者の社会参加における重点分野：社会参加ベースライン調査の結果から、現段階では対象地域において就労支援を行うレベルに達していないことが確認された。本プロジェクトにおいては「障害者の社会参加（地域、教育、就労、スポーツ・レジャー）」において、就労に重きをおかない協力内容とする。

2. 障害のある男女、子どもおよび家族への差別・偏見が軽減される。
3. 障害のある男女の情報アクセシビリティが改善する。

#### (7) 活動

- 0-1. 男女比に配慮し、プロジェクトステアリングチーム（PST）を設置する。
- 0-2. PSTが連邦・州・県政府およびNGOの障害関連組織に対し、定期的に報告を行い、さらなる国家行動計画実施促進についての議論をする。
  
- 1-1. PSTが障害のある男女を対象とした実態調査を行う。
- 1-2. PSTが男女比に配慮し、障害者リーダー候補を発掘する。
- 1-3. PSTが男女比を配慮し、障害者エンパワメント研修の計画を立てる。
- 1-4. PSTがジェンダー・社会的バランスを配慮し、障害者エンパワメント研修教材の準備を行う。
- 1-5. PSTが障害のある男女リーダーへの研修を実施する。
- 1-6. PSTが障害当事者団体・障害者自助団体の組織化を支援する。
- 1-7. PSTが障害のある男女の家族リーダー候補を発掘する。
- 1-8. PSTがジェンダー・社会的バランスを配慮し、障害者の家族のエンパワメント研修教材の準備を行う。
- 1-9. PSTが障害のある男女の家族リーダーへの研修用教材を作成する。
- 1-10. PSTが障害のある男女の家族リーダーへの研修を実施する。
- 1-11. PSTが障害のある男女の家族団体の組織化を支援する。
- 1-12. PSTが障害当事者団体・自助団体・家族団体の定期的会議の開催を支援する。
  
- 2-1. PSTが障害のある男女への偏見と差別、ジェンダー課題等に関する実態調査を定期的に行う。
- 2-2. PSTが障害問題に関する社会の認識改善のための研修を計画する。
- 2-3. PSTが障害問題に関する社会の認識改善のための研修用教材を作成する。
- 2-4. PSTが障害問題に関する社会の認識改善のための研修を実施する。
- 2-5. PSTが障害問題に関する社会の認識改善のための視聴覚媒体を作成・発信する。
- 2-6. PSTが既存の地域のイベントに関する情報を収集・整理する。
- 2-7. PSTが当事者団体・親の会が実施するアウェアネスキャンペーン／イベントの開催を支援する。
- 2-8. PSTが実施する、障害者・非障害者が共に参加する文化・スポーツイベントの開催を

支援する。

- 3-1. PSTが障害の発見・発生・介入からサービスを受けるまでの流れ、関連情報の入手手段・活用頻度について調査を行う（ジェンダー問題に配慮する）。
- 3-2. PSTが県内のサービス提供機関（医療・教育・職訓・福祉等）に関する情報を収集・整理する。
- 3-3. PSTが県内のサービス提供機関との連絡・調整・情報共有を行う。
- 3-4. PSTが都市部のサービス提供機関（医療・教育・職訓・福祉等）に関する情報を収集・整理する。
- 3-5. PSTが都市部のサービス提供機関との連絡・調整・情報共有を行う。
- 3-6. PSTがサービス提供機関の代表者を対象とした障害者受入れに関する研修を計画する。
- 3-7. PSTがサービス提供機関の代表者を対象とした障害のある男女の研修教材を作成する。
- 3-8. PSTがサービス提供機関の代表者を対象とした障害のある男女の受入れに関する研修を実施する。
- 3-9. PSTがサービス提供機関に関するさまざまな情報媒体の作成と、市民へ無償配布・配信する。
- 3-10. PSTがマスメディアとの障害問題に関する情報提供と広域発信の相互協力関係を構築する。

#### 4-2 プロジェクトの実施体制

本プロジェクトにおいては、連邦・州・県政府およびNGOが連携、北西辺境州アボタバード県の障害者の社会参加促進を目指す。また、すべての過程において、障害当事者やその家族がプロジェクト実施者として参加することとする。プロジェクトの実施主体として、アボタバード県社会福祉・コミュニティー開発局がリードする「プロジェクトステアリングチーム」を結成し、プロジェクトにおけるすべての活動の計画・立案・実施・フォローアップ等を行う。

プロジェクトの実施機関はアボタバード県調整局（District Coordination Office：DCO）、プロジェクトサイトはアボタバード県社会福祉・コミュニティー開発局とする。プロジェクト期間は3年間とし、長期専門家2名（チーフアドバイザー、業務調整／研修）と、短期専門家数名（自助団体・当事者団体・家族協会育成、アウェアネスライジング等）を派遣する。

モデル性の確保（他県・他州への普及のシステム確立）の手段として、連邦・州・県政府およびNGOが参加する合同調整委員会（JCC）のほか、州レベルにおいて国家行動計画ワーキング

グループを設置することとする。また、APCD帰国研修員、「ダスキン愛の輪基金」による障害者リーダー育成研修員を含むローカルのリソースパーソン、既存の障害者支援関連政府・非政府機関、各種イベント、障害当事者およびその家族リーダー等を活用することで、他県・他州において普及しやすいようなアプローチを採用する。

#### (1) プロジェクトステアリングチーム

プロジェクトの実施主体であるプロジェクトステアリングチームは、アボタバード県の障害者支援関連の政府・非政府機関、障害当事者およびその家族によって構成される。チームメンバーはプロジェクト開始後に決定することとする。メンバー構成（案）を表4-1に示す。

表4-1 プロジェクトステアリングチームメンバー構成（案）

分類	役割	所属・役職
プロジェクト	リーダー	社会福祉・コミュニティ開発局 局長
	アドバイザー	JICA専門家（チーフアドバイザー、業務調整／研修）
	ロジ業務	プロジェクトスタッフ（肢体不自由者）
政府	メンバー	連邦立肢体不自由・知的障害特殊教育センター 校長
	メンバー	アボタバード県立盲学校 校長
	メンバー	アボタバード県立ろう学校 校長
	メンバー	ケハール地区 副区長（肢体不自由児の父親）
非政府	メンバー	ライトハウス盲学校 校長（視覚障害者）
	メンバー	アル・フダーろう学校 校長
	メンバー	キングストーン逆統合学校 校長
	メンバー	Pak-Irishリハビリテーションセンター 所長
	メンバー	UKリハブ インターナショナル トラスト 代表
障害当事者 および その家族	メンバー	大学教授（肢体不自由）
	メンバー	大学教授（視覚障害者）
	メンバー	資産家（肢体不自由児の父親）
	メンバー	未定（聴覚障害者もしくはその家族）
	メンバー	未定（知的障害者の家族）

注意：□は障害当事者もしくはその家族

#### (2) 国家行動計画 ワーキンググループ

国家行動計画ワーキンググループは、①北西辺境州内における他県への波及、②プロジェクト進捗報告、等を目的に設置される。年4回の定例会議を、州都ベシヤールにて開催する。メンバーは連邦・州・県政府代表、NGO代表、プロジェクト関係者によって構成される。

メンバー構成を表4-2に示す。

表4-2 国家行動計画ワーキンググループのメンバー構成

分類	職位	組織
連邦政府	国家行動計画コーディネーター	特殊教育局、社会福祉・特殊教育省
	校長	特殊教育センター (ペシャーワル：北西辺境州 州都) 特殊教育局、社会福祉・特殊教育省
北西辺境州 政府	局長	社会福祉・女性開発局
	代表	州障害者リハビリテーション委員会
	リハビリテーション・ コーディネーター	肢体不自由者リハビリテーションサービス、 保健省保健局
県 政府	局長	県計画局
	校長	ろう学校
	校長	盲学校
プロジェクト	チーフコーディネーター	北部地域局長、特殊教育局、社会福祉・特殊 教育省
	プロジェクトダイレクター	局長、県調整局
	プロジェクトマネージャー	局長、社会福祉・コミュニティー開発局
	プロジェクトスタッフ	職員、特殊教育センター： 特殊教育局社会福祉・特殊教育省
NGO	プロジェクト専門家	長期専門家、短期専門家（第三国・日本人）
	代表	障害者支援関連NGO
	代表	障害者支援関連NGO
	代表	障害者支援関連NGO

注意：□は障害当事者もしくはその家族

JOCVおよびその他の関係者がオブザーバーとして会議への招待も可能

プロジェクトステアリングチーム、国家行動計画ワーキンググループ、および合同調整委員会を含む、プロジェクトの概念図を図4-1に示す。

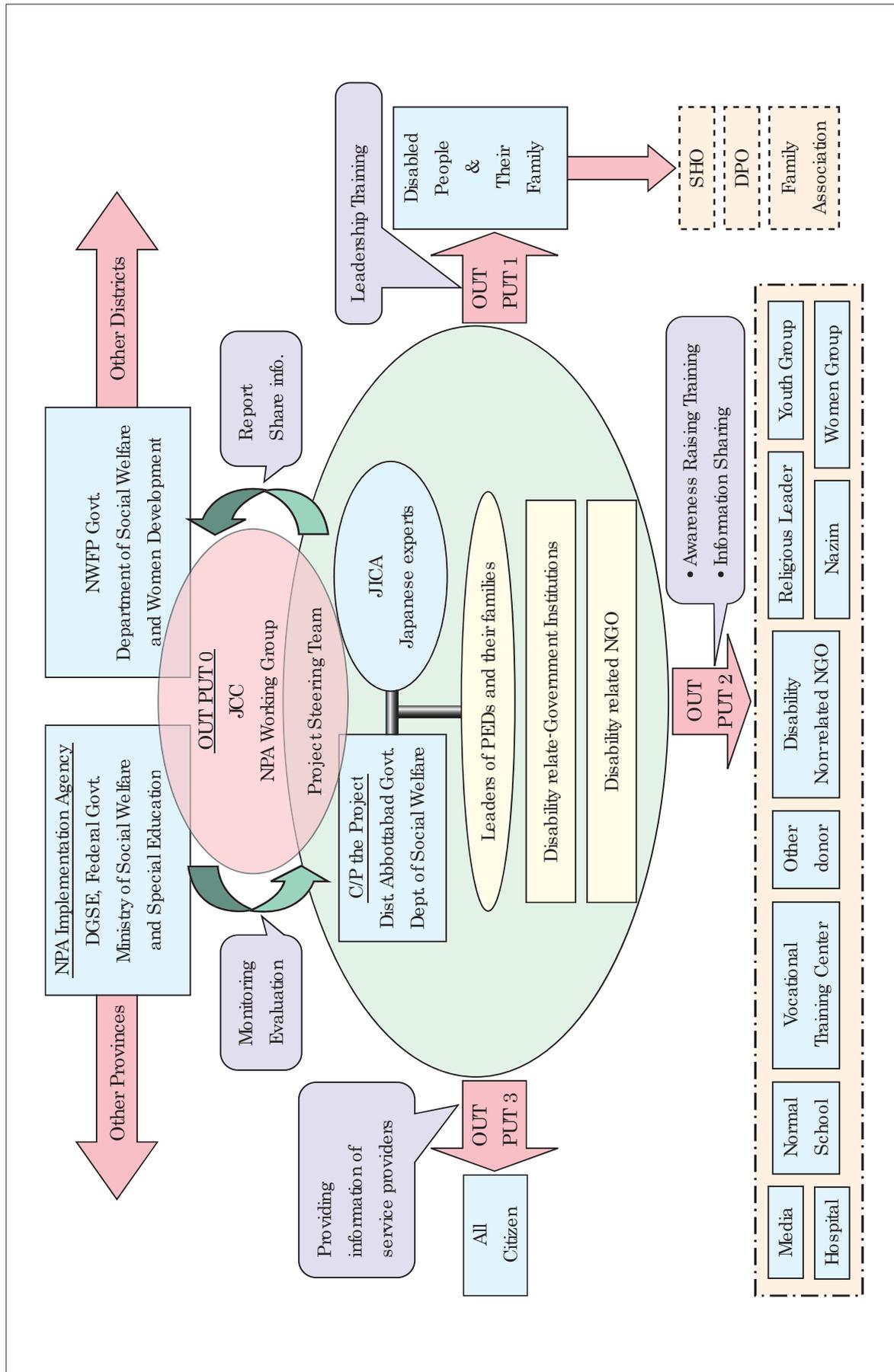


図4-1 プロジェクト概念図

BOX 1 障害者の社会参加とは（パキスタン隊員OV（OT）から収集した情報）

●サービス提供機関

- 学校に行く
- 職業訓練所（コンピュータコース、英会話等含む）に行く
- カルチャーセンターに行く
- 医療機関に行く

●就業

- 職場（仕事）に行く

●生活

- モスクに行く
- 買物に行く
- 親戚の家に行く
- 美容室に行く
- 家事（料理、洗濯、掃除、アイロンがけ等）に参加する<sup>5</sup>
- 食堂に行く
- 銀行に行く
- 結婚式に出る
- 服の仕立て屋に行く
- 来客にお茶を振舞う／食事をもてなす

●余暇

- 散歩に行く
- 知り合いの家に行く
- インターネットカフェに行く
- スポーツ観戦に行く
- 凧揚げをしに行く
- 旅行・観光に行く
- 公園に行く
- レジャー施設（遊園地／映画館／プール等）に行く
- スポーツをしに行く
- ウィンドウショッピングに行く

●コミュニティーの場

- ボランティアに参加する（人の役に立つ）
- 諸会合での集まり（婦人会・同窓会・地域集会）
- 地域イベントに参加する（祭り、展示会、スポーツ大会、ボーイスカウト）

●発言

- 諸機関・組織の委員として発言権を持つ
- デモに参加する
- メーリングリストに参加する
- やりたいことを考える
- 苦情を言う
- 選挙に投票する

※OVからのご助言

- 目標に対する具体的な策を考える際、活動レベルでの課題や、身体構造、心身機能、環境因子・個人因子等の課題をおさえておくことで、必要となる協力活動を提案しやすくする。WHOのICFに沿って考えるべき。
- 特に女性は外出するのに家族同伴とするなどの条件がある（介助面でも）。アボタバード県の障害のある女性のニーズ（やりたいこと）を調査する必要がある。

5 □内は外出「〇〇に行く」以外の活動

## BOX 2 障害者の参加とは (ICF : International Classification of Functioning, WHO)

### 【学習と知識の応用】

- 目的を持った感覚的経験 (視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚)  
例) テレビを見る。ラジオを聴く。シャルカミの手触りを感じる。お菓子を味わう。花のにおいを嗅ぐ。
- 基本的学習 (模倣、反復、読む、書く、計算、技能学習、その他の基礎学習)  
例) ジェスチャー、10まで数える、文字の認識、文字を綴る、足し算する、鉛筆で書く。
- 知識の応用 (集中、思考、読み書き、計算、問題解決、意思決定、その他の知識応用)  
例) 気を散らす音を気にしない、将来について思いを巡らす、手紙を読む・書く、足し算する、問題の同定、選んで食べる。

### 【一般的な課題と要求】

- 単一・複数課題 (例) 本を買って持ち帰り家で読む一連の作業
- 日課の遂行 (例) 1日のやるべきことを整理し計画をたてる
- ストレスとその他の心理的要求への対処 (例) 複数の子どもの面倒をみること

### 【コミュニケーション】

- コミュニケーションの理解 (言語・非言語的・手話・書き言葉等のメッセージの理解)  
例) 看板にかかれた店の名前を理解すること、警報を聞いて危険と理解すること、など。
- コミュニケーションの表出 (言語・非言語的・手話・書き言葉等のメッセージの表出)  
例) 声色を変えて物語を話す。友人に手紙を書く。
- 会話並びにコミュニケーション用具および技法の利用 (会話、討論、コミュニケーション用具・技法の利用)  
例) 数人の知り合いと会話する。会議で討論に参加する。親にFAXを送る。

### 【運動・移動】

- 姿勢の変換と保持 (基本的な姿勢の変換・保持、移乗)  
例) 座る・しゃがむ・体をまげる、しばらく横向きで寝る・椅子に座っている。
- 物の運搬・移動・操作 (持ち上げる、運ぶ、下肢で物を動かす、細かな手の使用、手と腕の利用)  
例) 床からクッションを持ち上げて胸に抱えて運ぶ、ボールを蹴る、コインをつまむ、ドアノブをひねって開ける。
- 歩行と移動 (歩行、移動、さまざまな場所での移動、用具を用いての移動)  
例) 草の上を歩く、段差を降りる、商店街を歩く、歩行器を使って移動する。
- 交通機関や手段を利用した移動 (交通機関や手段の利用、運転・操作、動物で移動)  
例) バスに乗ってバザールに行く、自転車で銀行に行く、馬車に乗って移動する。

### 【セルフケア】

- 自分の身体を洗う (例) シャワーを浴びる。
- 身体各部の手入れ (例) つめを切る。

- 排泄（例）トイレにいて排尿する。
- 更衣（例）衣装を着て靴を履く。
- 食べる（例）手でローティーにカレーをつけて食べる、スプーンでピリヤーニを食べる。
- 飲む（例）カップでチャエを飲む、ストローでペプシを飲む。
- 健康に注意する（例）賞味期限の切れたものを食べない、野菜を食べる。

#### 【家庭生活】

- 必需品の入手（住居の入手、物品とサービスの入手）  
例）フラットに入居する、衣服を買う。トマトを収穫する。
- 家事（調理、調理以外の家事）  
例）献立を立てて準備し、マトンピリヤーニを作って、客をもてなす。衣類を洗濯する。風呂を掃除する。ごみを捨てる。
- 家庭用品の管理および他者への援助  
例）衣類のアイロンかけ、車椅子を修理する、花壇に水をまく、子どもの世話など。

#### 【対人関係】

- 一般的な対人関係（基本的・複雑な対人関係）  
例）風邪を引いている人に「お大事に」と声をかける。学校で自己紹介をする。
- 特別な対人関係（見知らぬ人との関係・非公式な社会的関係・家族関係・親密な関係）  
例）地位の高い・低い人との関係をつくる。友人・隣人と非公式な関係をつくる。家族とよい関係を保つ。恋愛関係を保つ。

#### 【主要な生活領域】

- 教育（非公式・就学前・学校・職業・高等）  
例）家庭で教育を受ける。教育機関で教育を受ける。
- 仕事と雇用（見習研修・仕事の獲得と維持・報酬をとまなう（ともなわない）仕事）  
例）職を探す・変える。昇進する。退職する。自営する。ボランティアに参加する。
- 経済生活（基本的・複雑な経済的取引・経済的自給）  
例）金銭を使用して商品を購入する。銀行口座を開設して貯金する。土地などの財産を管理する。

#### 【コミュニティーライフ・社会生活・市民生活】

- コミュニティーライフ（例）ボーイスカウトに参加する。結婚式に参加する。
- レクリエーションとレジャー（例）スポーツする。映画を見に行く。旅行する。
- 宗教とスピリチュアリティ（例）宗教団体の活動に参加する。モスクにお祈りに行く。
- 人権（例）国家的・国際的に認められた権利の享受。
- 政治活動と市民権（例）選挙に行く。政治団体を結成する。